

部局名	安全環境部	所属名	環境保全課 環境政策室	所属長名	進 英二	電 話	483-1151 内線3211
-----	-------	-----	-------------	------	------	-----	-----------------

1. 事務事業の位置付け・概要（PLAN）

コード	3677		事務事業名称	環境保全活動事業					短縮コード	経常	3677	臨時	3678
予算区分	会計	01	一般会計	款	04	衛生費	項	01	保健衛生費	目	04	公害対策費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他			根拠法令等		環境基本法、環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律、八千代市環境基本条例、生物多様性基本法							
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
○ほたるの里づくり事業→平成5年の環境基本法の制定に伴い、自然環境の保全等広範囲な環境問題に取り組む諸施策が打ち出された。また、市民からも自然保護や自然とのふれあいに対するニーズが高まっていた。 ○こども環境教室事業→今日の環境問題を解決するためには、次世代を担う子供たちが早くから環境へ関心を持つことが肝要である。このような目的を果たすための有効な施策として、こども環境教室が事業化された。 ○環境学習の支援→市民・事業者からの講演依頼、地球的規模の環境問題の深刻化、環境問題への関心の高まり、「まちづくりふれあい講座」の開始、小中学校での「総合学習」における環境学習の実施。 ○谷津・里山保全事業→後期基本計画に位置づけられ開始。													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測				総合計画の施策体系	5本の柱（章）	03	安全・環境共生都市をめざして						
○平成15年に「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」が制定され、地方公共団体も積極的に様々な施策を実施していかなければならない。ほたるの里づくり事業、こども環境教室及び環境学習支援事業のいずれもこの法律の趣旨に沿うものであり、今後重要度は更に増すものと考えられる。 ○平成19年に国は、「第3次生物多様性国家戦略」を策定し、この中で里地里山・田園地域保全の重要性を述べている。今後一層、谷津里山保全のための取り組みを進めることが必要になると思われる。					大項目（節）	03	環境・衛生						
					中 項 目	01	環境との共生						
					小項目（施策）	02	自然環境・生態系の保全						
						03	環境保全活動の支援						
					細 項 目	01	自然環境の保全と管理						
						02	環境学習の推進と人材育成						
				実施計画の計画事業	3301	谷津・里山保全事業							
計画事業の位置付けの有無			☐	計画事業期間		平成17年4月 ～ 平成21年3月		計画事業費		千円			

2. 事務事業の目的・指標・実績（DO）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	1 八千代市ほたるの里づくり事業→市民 2 こども環境教室事業→小学校5・6年生 3 環境学習の支援→環境学習を希望する市民、事業者、学生、生徒、児童等							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成20年度に実際に行ったこと： 1 ほたるの里の維持管理、整備、ナイトウォッチング、学習会、会報発行他 2 子ども環境教室、昆虫展、昆虫・植物学習会など環境学習の実施 3 環境学習の支援 4 谷津・里山保全事業 講演会、自然観察会、作品展の実施							
	※平成21年度に計画していること： 1 ほたるの里の維持管理、整備、ナイトウォッチング、学習会、会報発行他 2 子ども環境教室、昆虫展、昆虫学習会など環境学習の実施 3 環境学習の支援 4 谷津・里山保全事業 講演会、自然観察会、作品展、谷津・里山保全計画の策定							
意図 （何を狙っているのか）	1 八千代市ほたるの里づくり事業→ホテルの保全を通じ、自然保護意識の高揚と市民主体的活動を支援する。 2 こども環境教室事業→子供たちが自然とふれあう体験学習を行うことにより、環境問題を学び理解を深める。 3 環境学習の支援→市民・事業者等が環境問題に対する理解を深める。							
結果 （どんな結果に結びつけるのか）	入力対象外							
区 分				単位	19年度	20年度		21年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標1	市民	人	188,624	191,000	191,469	194,000	
	指標2	市内小学5・6年生の児童数	人	3,683	3,725	3,716	3,899	
	指標3	環境学習を希望する市民、事業者、生徒	人	157	500	180	500	
活動指標	指標1	ほたるの里の活動回数	回	14	14	14	14	
	指標2	「子ども環境教室」への参加者数	人	30	30	30	30	
	指標3	各種講座開催回数	回	5	10	6	10	
成果指標	指標1	ホテルメイトの人数	人	148	200	112	200	
	指標2	こども環境教室への参加者数	人	30	30	30	30	
	指標3	環境学習への参加人数	人	157	500	180	500	
上位成果指標	指標1							
	指標2							
	指標3							

コード	3677	事務事業名称	環境保全活動事業				所属名	環境保全課 環境政策室
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☒ 改革・改善して継続			○谷津・里山を保全するため、平成２０年度から３年間かけて、「谷津・里山保全計画」を策定する。その中で、市民ボランティアによる生物調査を行っていく。また、絶滅危惧種などの動植物を保護する取り組みをおこなう。 ○ボランティア講師制度の利用により環境学習を進めることができる。 ○ほたるの里づくり事業において、ホタルメイトへの参加を募り、市民との協働により管理・運営をおこなう。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☒ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
☐ 廃止(事業完了含む)								
☐ 休止								
☐ 現状のまま継続								
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			谷津・里山を保全するため、平成２０年度から３年間かけて、「谷津・里山保全計画」を策定する。このため経費が増加する。	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☐	☐	☒		
			不 変	☐	☐	☐		
			低 下	☐	☐	☐		

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
○ほたるの里づくり事業→市民の身近な自然環境に関する関心が高まっている反面、希少な動植物が盗まれてしまうこともある。自然を観察するうえでのルール の啓発も必要である。八千代市でも第２、第３のほたるの里をつくって欲しいという要望がある。 ○こども環境教室事業→学校での学習とは違った体験ができた と、参加者からは好評を得ている。 ○環境学習の支援→様々な市民団体、事業所、小中学校児童生徒、学校から、学習会への講師依頼や問い合わせがある。 ○谷津・里山保全事業→様々な市民団体や市議会から、保全の要望が出ている。									

所属長コメント	市内に残されている自然環境を保全・再生していくためには、先ず、地域の自然に関心を持ち、その大切さを知り、環境問題に対する理解を深めることが必要である。 このような観点から、現在、グラウンドワーク方式による「ほたるの里づくり」や「子ども環境教室」、「昆虫展」、「自然観察会」、「谷津・里山保全」等の各種事業を実施しており、今後とも、さらに一層、推進していく必要があると考えます。								
評価調整委員会評価	☒ 改革改善して継続			担当課の評価のとおり，課題解決に努め可能なことは順次推進すべき。また経費の増加については十分検証すべき。					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☒ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
	☐ その他								
	☐ 廃止(事業完了含む)								
	☐ 休止								
	☐ 現状のまま継続								